

■ (37) 「エックスハウス」を知っていますか？

エックスハウス。被災地の避難所にいる人たちがよく話題にする仮設住宅のタイプです。工事現場の事務所を想像してみてください。壁面にX印に金属棒を渡して補強しているプレハブの建物があります。扉は左右に開く型で、被災地には多数あります。

岩手県では7月上旬までに必要な仮設住宅が完成する見通しがたった。避難所にいる人たちも順次、仮設住宅に移る。そこで浮き彫りになっているのが「仮設の格差」。上記のタイプと住宅メーカー製とに大別される中、後者は外観がれんが造り風の模様だったり、手前に引く普通の住宅タイプの扉だったり…。避難者たちも、どちらかを選ぶとなると、つい後者を選んでしまう。そんな状況が発生している。ただ、元の住まいに近く、仕事場にも行きやすい場所にある仮設住宅となると、ほとんど選択の余地はないのも実情だ。

平らな土地の少ない三陸沿岸では、狭い土地に集中して仮設住宅が建てられる。まるで団地のような。そこでの生活は制度上、最大2年。ただ、そう信じている被災者はほとんどいない。長期化は必至の仮設暮らし。そこへの引っ越しもわずかな一歩でしかない。(山)